2020／4　vol.291
公益社団法人 滋賀県建築士会

月刊 家

令和２年４月１日発行　通巻291号
昭和40年８月21日第３種郵便物認可
発行／公益社団法人　滋賀県建築士会
〒520-0801
滋賀県大津市におの浜１-１-18 建設会館 3F
TEL077-522-1615 ／ FAX077-523-1602
URL：http://www.kentikushikai.jp/　mail：shiga-sa@mx.bw.dream.jp

CONTENTS

・総務企画委員会 ･･････････････････ 2
2020年度 通常総会開催のご案内
・まちづくり委員会
第11回「未来の家」「未来のまち」子ども立体作品展事業報告
・地域貢献活動センター
建築士が参画する地域貢献活動助成金のご案内

・青年委員会 ････････････････････ 3
近建青研修事業「BO祭 ～建築を好きになることが防災につながる～」開催報告

・青年委員会 ････････････････････ 4
地方建築士研鑽事業
つくえとげんばの西周会
～Vol.3姫路から岡山 せとうちまで～

・地区だより ････････････････････ 5

・ポリテクカレッジからのお知らせ･･･ 6
・地区別会員数
・4月の暦
・滋賀 万葉の旅　第11回
万葉集　巻3-266　柿本人麻呂

びわ湖大津館（大津市柳が崎）
万葉集　巻3-266　柿本人麻呂

「淡海(あふみ)の海(うみ)　夕波千鳥(ゆふなみちどり)　汝(な)が鳴けば
情(こころ)もしのに　古(いにしへ)思ほゆ」

近江の海の夕べに寄せる波に遊ぶ千鳥よ。お前が鳴くと私の心はしんみりして、しみじみと昔のことが偲ばれる。（石碑解説文より）

有名な人麻呂の短歌。琵琶湖の湖上におとずれた薄暮（はくぼ）の中に千鳥鳴く。その声を聞いている、と昔のことがおもわれるという一首である。昔とは、昔ここに栄えた大津の都のことで、人麻呂も若き日をこの宮廷ですごしたらしい。今、廃絶から十数年たって来てみると、昔をしのばせるものは何もなく、亡者たちの面影ばかりが、千鳥の声とともによみがえってくる。
（中公新書1874より　Chapter1：万葉の遠い風景）

総務企画委員会

2020年度 通常総会開催のご案内

日　時：2020年５月30日㈯　**総　会　14：00～**（予定）
場　所：彦根ビューホテル　彦根市松原町網代口1435-91
TEL：0749-26-1111
※詳細は５月号にてお知らせ致します。

まちづくり委員会

第11回「未来の家」「未来のまち」子ども立体作品展事業報告

令和２年２月15日㈯～16日㈰、イオンモール草津　イオンホールにて、久しぶりの開催となる子ども立体作品展は、子ども達の感性や創造性を引き出してのびのびと育ってくれることを願い、併せて本会及び建築士の認知度UPを図る事業として開催しました。作品数は111点、二日間で1600人を超える来場者を数え、賑やかに表彰式まで無事に終了して、本会及び建築士をPRできました。

ご協力いただきました皆様、各園ご関係者、行政の方々、そして本会会員の皆様方にお礼申し上げます。ありがとうございました。

審査の様子

展示の様子

耐震

表彰式の様子

地域貢献活動センター

建築士が参画する地域貢献活動助成金のご案内

滋賀地域貢献活動センターは、滋賀県建築士会会員が参画する県内の地域貢献活動を支援し、地域社会の発展に寄与することを目的としております。

当センターでは、建築士と共に次の９つ視点でまちづくり、地域活動をしている、又はしようとしているグループに、活動費の助成や技術・情報などの支援をしています。

- 地域のまちづくり
- 歴史的遺産の再生と活用
- 景観の保全
- 居住環境の保全・改善
- 福祉環境の整備
- 地域住宅づくり
- 地域防災
- 自然環境の保全・整備
- その他地域活性化社会サービス等

助　成　金・１件の限度額：30万円かつ事業費の1/2・本年度総助成額：40万円（今年度最終予定）

助成金の条件・滋賀県建築士会の会員２名以上（継続して５年以上の会員）が参画し、建築士として職能を生かした活動グループ。・営利を目的としない地域貢献活動グループ。・事業終了後１ケ月以内に報告書等を提出のこと。・他の助成金を受けている場合は、助成が受けられない場合があります。・詳しくは滋賀県建設士会ホームページの「地域貢献活動センター」をご覧ください。

青年委員会

近建青研修事業「ＢＯ祭 ～建築を好きになることが防災につながる～」開催報告

近畿建築士会協議会青年部会は、１月25日㈯にデザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）にて研修事業『BO祭　～建築を好きになることが防災につながる～』を開催致しました。近畿各地から100名のうち、滋賀からは25名の参加をいただきました。今年の研修事業委は、2020年で阪神・淡路大震災から25年となる節目の１月に兵庫県神戸市で『防災』をテーマに事業を企画いたしました。会場の大空間を活かし、お祭りのように賑やかに、内容の異なる３つのコンテンツを楽しく学びました。

青年委員会　集合写真

全体集合写真

第１部　セミナーⅠ：災害前にできること　～災害を知る　構造設計の実践を通じて～

日本を代表する構造家 オーノJAPANの大野博史氏をお招きし、これまでの作品を通して構造設計の面白さや奥深さを学ぶとともに、構造家の視点からみた「防災」についてお話しいただきました。

災害に対する構造設計の視点としては、予めクライアントと建物強度の目標設定を話し合うことの大切さをわかりやすい言葉で学ぶことができました。

またこれまでの作品を通して、意匠設計者の実現したい建築に対して、一つ一つ異なるアイデアと手法で、耐震性などの安全性の確保はもちろんのこと、施工方法についても提案するという構造設計の奥深さを学びました。

オーノJAPAN　大野氏のセミナー

第２部　体験：災害時にできること　～避難所用・紙の間仕切りシステム～

坂茂氏が代表を務める特定非営利活動法人ボランタリー・アーキテクツ・ネットワークをお招きし、避難所用・紙の間仕切りシステムを使った発災後の避難所での住環境支援についてお話しいただきました。その後、間仕切りシステムの組立方法を学び、参加者全員で実際に組み立てたことで避難者の気持ちを考えたり、スケール感を実感したりと多くの学びがありました。あらかじめ割り振られた初対面者のグループでも協力しながら組み立てることができ、避難者のプライバシーを作るだけでなく、組立時にはコミュニケーションツールにもなっていると感じました。

VAN　紙の間仕切り組立体験

第３部　セミナーⅡ：災害後にできること　～「まちづくり」と建築士の役割～

阪神大震災後神戸の災害復興まちづくりに貢献された、松原氏をお招きしてセミナーを行いました。災害復興まちづくり専門家として参加された神戸や東北の事例とともに、まちづくりにおける建築士への関わり方をお話しいただきました。

松原氏が繰り返し強調されていた『 建築士はまちづくり専門家に成りうる』というフレーズには、私たち建築士への期待だけでなく責任も強く感じました。

スタジオカタリスト　松原氏のセミナー

近畿建築士会協議会青年部会研修委員会委員長／青年委員会相談役　中村民雄（高島地区）

青年委員会

地方建築士研鑽事業　つくえとげんばの西周会 ～Vol.3姫路から岡山 せとうちまで～

令和２年２月23日㈰・24日㈪に、今年度３回にわたり展開しました地方建築士研鑽事業、つくえとげんばシリーズのVol.３として、「西周会」を実施いたしました。

年度末に向けての忙しい時期ではありましたが、一般の参加者も含む22名の方にご参加いただき、姫路では地方建築士研鑽事業Vol.１「座談会」でご参加いただいた兵庫県建築士会のlyhty（リュフト）代表黒木様にご案内いただき、井上茶寮、設計事務所lyhty様事務所、ギャラリーm1997を見学させていただきました。明治から続く塩田庄屋を改修したスペースで１棟でありながらそれぞれ異なった、仕様の空間、素材の使用の仕方を見学する事ができました。

岡山では岡山県建築士会青年部部長今井様にもご参加いただき、後楽園やA＆Aジョナサンハセガワ、地方建築士研鑽事業Vol.２「見学会」で学んだCLT工法の物件であるA&Aリアムフジ、過日に開催された近建青の事業「BO祭」にて紹介されたぼよよん土管、天神山文化プラザを巡りました。

香川では香川県の建築士会会員様と、また今井様にもご一緒いただき３県合同交流会を開催しました。２日目には前日の交流会から引き続き香川県建築士会青年委員会委員長の中村様にもご同行いただき、早朝よりフェリーで直島に向かい地中美術館や直島ホール、家プロジェクトの各施設を見学しました。２日間にわたり、ご参加いただいた方は元より行く先々でそれぞれの県の建築士の方と交流を持つことができ、シリーズを通してのテーマであった「地方だからこそ」を深く体感できる事業になったと感じます。見学先を詰め込んだタイトなスケジュールではありましたが多くことを学ぶことができました。ご参加、ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

青年委員会 中川祐樹（湖東地区）

西周会のはじまりは福原委員長から

姫路市的形で見学

岡山後楽園からは今井部長と

CLT事例を見る

３県合同交流会開催

直島に到着

海近くの黄かぼちゃと

直島ホール見学

中村委員長にお見送りいただきました

湖北地区

湖北建築志会　新年会

去る１月31日㈮に長浜市のLINEA様にて「湖北建築志会　新年会」を開催致しました。この新年会は湖北地域会、同賛助会だけでなく、タイトルにある「志」が示す通り、長浜建築施工管理技士会そして湖北で建築に携わる、志す方々にもお声をかけさせて頂き、その数なんと90名の方々がご参加下さる大新年会となりました。湖北地域会大村代表の挨拶で始まり、地域会役員より一年間の活動を紹介、そして滋賀建築士会山本会長からのご挨拶を頂戴し、湖北地域会賛助会宮本会長の乾杯のご発生により開宴致しました。楽しい歓談があり、終盤では地域会役員企画のクイズゲームで会場全体が一層の盛り上がりを見せました。そんな賑やかな宴の中締めは建築士会伊藤相談役にお願いし閉宴となりました。この新年会では建築に携わる者同志の親睦が一層深まったことと、また新しい繋がりが生まれたと思います。ご参加頂いた皆様有難うございました。

90名で賑わいました

デコピンゲームに必死です

ハーイ！ぴったり大当たり

高島地区

令和2年　高島地域会新年互礼会を開催

●日　時　　令和２年１月18日㈯
●場　所　　鳥居楼（高島市新旭町）

会員をはじめ賛助会員様の多数の参加を頂き、令和２年高島地域会新年互礼会を開催しました。

賛助会員様にはPRタイムを設け、各社独自の宣伝を行っていただきました。

和やかに進行する中、抽選会で景品が当るところの日一番白熱するなど、会員相互の親睦が深められ有意義な日となりました。

そして、今年１年も高島地域会一丸となって、建築士会を盛り上げて会員増強に努め、各自・各社も良き年になるように誓い合いました。

市川地区代表の挨拶

甲賀地区

見学会事業開催報告

２月15日㈯、三重県伊勢方面で見学会事業を開催いたしました。会員・賛助会員とその家族、23名の方にご参加頂きました。

午前中は、午後から参拝予定の伊勢神宮のおまつりや歴史・文化に関する資料の展示されている神宮徴古館を見学しました。展示品の中でも社殿の復原展示や20年に一度行われる式年遷宮で新調する御神宝類（撤下品）は圧巻でした。

設計は、赤坂離宮（現.迎賓館）を手掛けられた片山東熊氏で、国の登録有形文化財に指定されています。ルネッサンス様式の重厚で格調ある神宮徴古館の前で記念撮影を行いました。

昼食時には、温泉も楽しんで頂き、懇親を深めることができた有意義な１日でした。

神宮徴古館にて

伊勢かぐらばリゾート千の杜で昼食

滋賀職能大からのお知らせ

令和２年度 能力開発セミナー のお知らせ（4、５月開講分）

コースNo.	コース名	受講料	定員	実施日
CH011	木造住宅の基本計画技術	￥10,500	10	４/18(土)、25(土)
CH021	住宅基礎の構造設計実践技術	￥10,000	10	５/16(土)、23(土)

講座内容等については、「滋賀職能大」で検索、「在職者・事業主の皆様へ」からご確認ください。
下記QRコードもご活用ください。

デジタルパンフレット　　講座一覧（建築系）　　受講申し込み

各講座ともCPD認定プログラム申請コースです。
お申し込みは各コースとも開始日の１カ月前までです。お早めにお申し込み下さい。
開始日１カ月未満で受講を希望される場合は下記学務援助課へお問い合わせください。

「オーダーセミナー」のご相談を承ります。

職場やグループ単位での独自研修会「オーダーセミナー」の企画立案のお手伝いをいたします。下記「学務援助課」までお問い合わせください。

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
〈厚生労働省所管〉近畿職業能力開発大学校附属
滋賀職業能力開発短期大学校（滋賀職能大）
www3.jeed.or.jp/shiga/college/

〒523-8510 滋賀県近江八幡市古川町1414
学務援助課　TEL：0748-31-2254
FAX：0748-31-2255

地区別会員数 令和２年３月１日現在	支部	大津	湖南	甲賀	湖東	彦根	湖北	高島	湖西滋賀	計
	2月	202	146	80	103	82	134	64	24	835
	3月	203	146	79	101	82	135	65	24	835
	差引	1	0	▲1	▲2	0	1	1	0	0

士会入会申込者

地区	氏　名	地区	氏　名
大津	菊地原克夫	湖北	藤本　和紀
湖南	神谷　圭三	高島	萩原　結子

4月の暦

日	曜	六曜	行事
1	水	大安	二級木造建築士試験 郵送による受付（3/25～4/13） 一級建築士試験 郵送による受付（4/1～4/20） ※受付場所による受付は行いません。詳細は（公財）建築技術普及センターのホームページにてご確認ください。
2	木	赤口	
3	金	先勝	
4	土	友引	
5	日	先負	
6	月	仏滅	
7	火	大安	情報広報委員会
8	水	赤口	青年委員会
9	木	先勝	
10	金	友引	
11	土	先負	
12	日	仏滅	
13	月	大安	
14	火	赤口	
15	水	先勝	
16	木	友引	
17	金	先負	
18	土	仏滅	
19	日	大安	
20	月	赤口	
21	火	先勝	
22	水	友引	
23	木	仏滅	四役会 理事会 湖南地区委員会　通常総会
24	金	大安	
25	土	赤口	湖東地区委員会　通常総会 高島地区委員会　通常総会
26	日	先勝	
27	月	友引	
28	火	先負	会計監査
29	水	仏滅	昭和の日
30	木	大安	

＊新型コロナウイルスの感染予防のため（公社）滋賀県建築士会主催の３月開催事業はすべて中止となりました。

滋賀　万葉の旅　第11回　　―柿本人麻呂―

作歌時期は不明だが、「いにしへ」は近江に都があった頃をいうのであろう。
「思ほゆ」は心の内側からわき上がるように思われてくることをいう。
夕方、近江の海の波間に千鳥を見、その声のなかで柿本人麻呂は懐旧の情を深くする。　（石碑解説文より）